

## 「本当に味わえ」

多治見市 梅溪祐慶

さまざまある健康法の基本と言われる一つに、「よく噛んで食べる」があることはよく知られています。私は、これがなかなかできず、よく「ゆっくり、しっかり噛んで食べなさい」と注意されています。要は、よく味わいもせず早食いしているということです。

よく噛む、咀嚼するという事は、食べ物の消化・吸収がスムーズになり、体のお通じがよくなります。また、味わいには、酸味・苦味・甘味・塩味・辛味の五つがあるとのことですが、その味に含まれる旨味をしっかり感じて味わうこと、ひいては食材の持つ本当のおいしさを知る事にもなるのです。

さて、いきなり話が変わりますが、私の母方の祖父は、27年前の秋、突如倒れてそのまま息を引き取りました。その直前まで、好きな墨書を書斎で行い、一段落したところで倒れたのです。

その墨書は、五人の子どもたちに渡したいと、同じ言葉が五幅したためてありました。結果、その言葉が祖父の遺言となります。その言葉とは、天親菩薩の『願生偈』にある、「愛樂仏法味（仏法の味を愛樂す）」というものです。

曇鸞大師の『浄土論註』に照らせば、この世に於いてそれぞれがそれぞれの状況・環境の中でグループを作り、対立関係を生み出しているけれども、本来は生き合う者として何の隔たりもないものであります。そのことに気付く世界を知ることができたなら、如来のお心より生まれ出た者になって、仏法の味わいを本当に喜んでいただくことができる、ということが、この「愛樂仏法味」の言わんとしていることと教えられます。

この言葉が、祖父からの遺言というメッセージならば、これは「仏法の味を愛し願う生き方をしてほしい」ということでしょう。

その為には、まず「仏法をしっかり味わう」ことが求められます。

冒頭に、私の早食いの話をいたしましたでしたが、普段の食に止まらず、絶えず生活に寄り添ってある仏法までも、表面上の聞きかじりや耳触りの良い心地よさだけで知ったつもりになっている私に、本当の味わいを知って、心身が安らぐ生き方をしてほしいと、諸仏になられた祖父の願いを今更ながらに感じています。